

2009年9月期 決算説明会

2009年11月26日
代表取締役社長 廣谷 彰彦



本資料および本説明会の説明には、当社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの記述が含まれております。これらの記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断や仮定に基づいており、将来における当社の実際の業績または展開と異なる可能性があります。

プレゼンテーション・アウトライン

I : 2009年9月期業績ハイライト

II : 2010年9月期業績目標

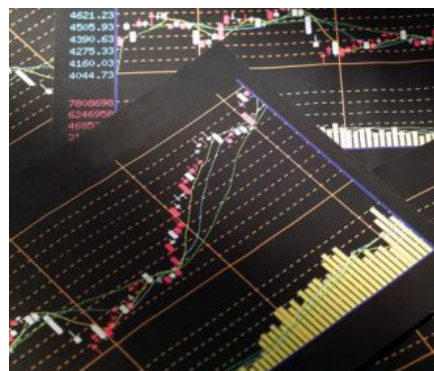
III : ACKグループの紹介

IV : 新中長期経営戦略「ACKG2010」

V : 質疑応答

APPENDICES

I : 2009年9月期業績ハイライト



2009年9月期 業績ハイライト(売上高、受注高)

- ◇事業譲受に伴い売上高、受注高とも増加
- ◇売上高の期首計画達成率は93.5%
 - ・国内民間、海外において、期首計画の売上高が不足
- ⇒民間設備投資の減少、事業譲受手続きの遅れによる受注の遅れ

(単位:百万円)

	前期 (2008/09期)	当期 (2009/09期)	増減 対前期比	期首計画値
売上高	26,380	29,911	+3,531 (+13.4%)	32,000
受注高	23,804	28,209	+4,405 (+18.5%)	—

2009年9月期 業績ハイライト(利益)

- ◇前期に比べすべてにおいて増益を達成

(単位:百万円)

	前期 (2008/09期)	当期 (2009/09期)	増減 対前期比	期首計画値
営業利益	418	568	+150 (+35.7%)	520
経常利益	445	466	+21 (+4.7%)	460
当期純利益	57	136	+79 (+135.4%)	160

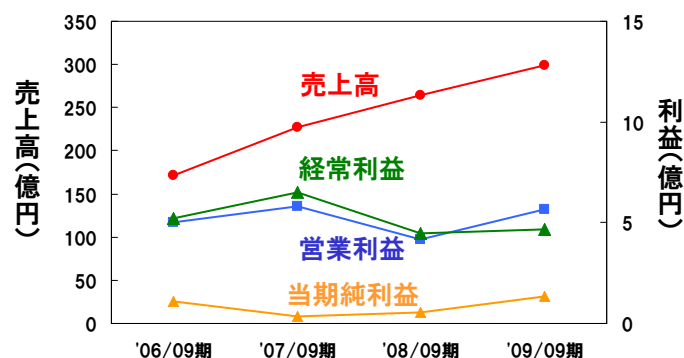
2009年9月期 業績ハイライト(貸借対照表)

海外コンサルタント事業譲受に伴い資産・負債が増加
 ◇完成業務未収入金及び未成業務支出金等の増加により資産が増加
 ◇運転資金のための短期借入金及び事業譲受資金のための長期借入金の増加により負債が増加

(単位:百万円)	前期 (2008/09期)	当期 (2009/09期)	増減額
資産合計	17,389	19,353	1,964 (+11.2%)
負債合計	11,216	13,078	1,862 (+16.6%)
純資産合計	6,173	6,275	102 (+1.7%)
負債・純資産 合計	17,389	19,353	1,964 (+11.2%)

通期業績の推移

◇売上高は、大幅拡大
 ◇利益は、微増傾向
 ◇今後、利益率の向上を目指し強固な経営体制へ
 ⇒生産原価・経費の縮減策をグループ各社で継続実施、営業の効率化、拠点の集約化、事務所の統廃合、事業統合などによる生産効率の向上



Ⅱ：2010年9月期 業績目標




株式会社 **ACKグループ**

10

2010年9月期の業績目標

- ◇既存の高い技術力による売上高の強化
- ◇事業戦略センターと事業会社の連携
- ◇事業会社の新規分野、新規顧客への進出

(単位:百万円)

	2009/09期通期	2010/09期通期 (計画値)	増減 対前期比
売上高	29, 911	32, 000	+7.0%
営業利益	568	570	+0.1%
経常利益	466	470	+0.7%
当期純利益	136	150	+9.9%

Ⅲ: ACKグループの自己紹介



 株式会社 ACKグループ

12

ACKに込めた想い

ACKグループは、
「**知:Knowledge**」を追求し、
「**前進し続ける:Advancing**」ことを目指す
「**コンサルタント:Consulting**」集団である。
また、ACKグループの求める「**知**」は、
「**活動的な知:Active Knowledge**」
でありたいと考えている。

また、A・C・Kには次の想いも込めている。

- A**: Ambitious(野心)、Audacious(大胆に)
- C**: Challenging(挑戦)、Competitive(高い競争力で)、
Confident(自信に溢れ)、Credible(信頼され)
- K**: Knowledgeable(情報精通)

ACKグループとは、

私たちACKグループは、**世界の人々の**
困ったことを解決し、要望を実現するために考え、
アイデア・技術を創造し、提供することを生業とします。



【ロゴマークの意味】
「知」を核とし、
決まった型にはまらず、
時代の変化に応じて、
自由に業容を変えながら
仲間を募り広がっていく。

ACKG グループ会社の変遷



事業会社の紹介

事業会社	業務内容
 株式会社 オリエントコンサルタンツ	デザインソリューション、国土基盤、都市地域、交通、環境、防災、グローバルコンサルティングなど
 大成基礎設計株式会社	地質・土質調査、環境調査・浄化、構造物調査など
 株式会社 中央設計技術研究所	上下水道、廃棄物、環境、情報に関する調査・計画・設計・維持・運営など
 株式会社 エイテック	建設に関する調査・設計・監理、CM/PM、交通関連業務、測量、写真測量、GIS、補償コンサルタントなど
 株式会社 アサノ建工	さく井工事、地質・土質調査、解体工事、温泉工事など
 株式会社 吉井システムリサーチ	システム開発、パッケージソフトウェア販売、ITサービスなど
 株式会社 総合環境テクノロジー	循環型社会の形成に向けた廃棄物処理、リサイクル、エネルギーなどの環境ソリューションの提供など
 株式会社 オリエントサービス	間接部門業務支援、ITサポート、人材マネジメント、人材派遣など

ACKグループの事業内容

世界の人々の生活や産業を支えるあらゆるものを対象に、
インフラ・マネジメントサービス事業や環境マネジメント事業など
アイデア・技術を提供しています



ACKグループが対象とする領域

インフラ・マネジメントサービス事業

世界の人々の生活や産業の基盤となる、道路、橋梁、鉄道、空港、港湾、上下水道、廃棄物処分場などの整備・維持管理や災害の予防・対策などの計画・調査・設計・マネジメントなどに関する事業



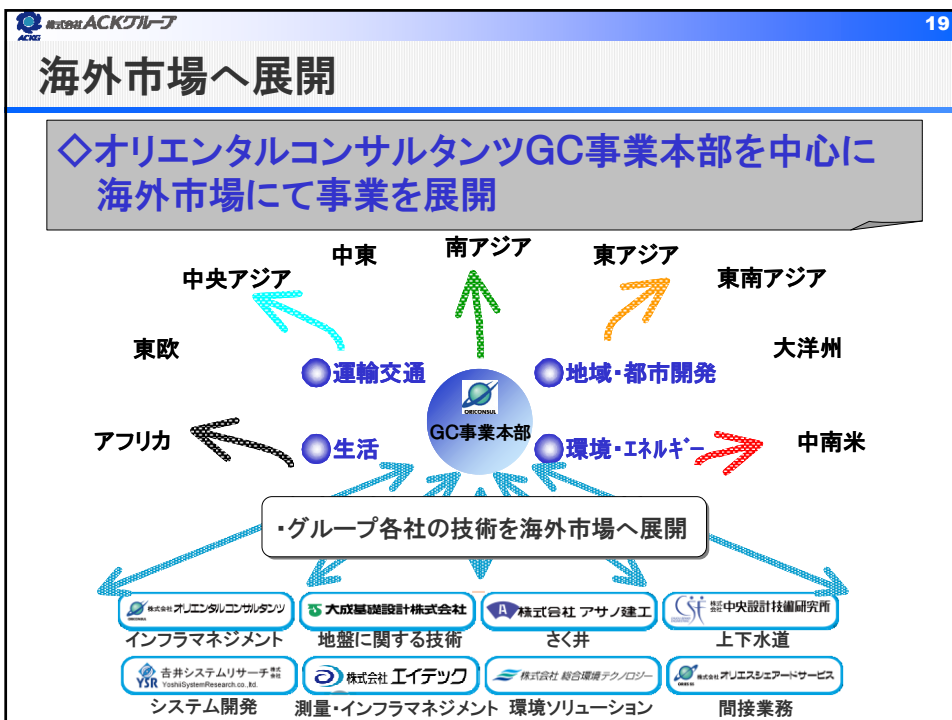
ACKグループが対象とする領域の例

環境マネジメント事業

人と自然が共存できるように、騒音・振動・大気質・水質・土壌・アスベスト対策・バイオマス利用や動物・植物の保全・再生、CO₂削減による低炭素社会の実現などを推進する事業



ACKグループが対象とする領域の例



株式会社 ACKグループ 20

変化する世界中のニーズに対応

◇今世界中で求められている、地球環境、エネルギー、食糧などあらゆるニーズに対応できる技術力

- 生活⇒農業・食糧、河川、上下水道、工業用水等
- エネルギー⇒風力・バイオマス等再生可能エネルギー、火力発電
- 環境保全対策⇒地球温暖化(CDM等)、自然環境、大気汚染、廃棄物等
- 地域&都市開発⇒観光開発、都市計画、建築等
- 交通インフラ⇒道路、鉄道、空港、港湾等

▲農業開発(インドネシア)

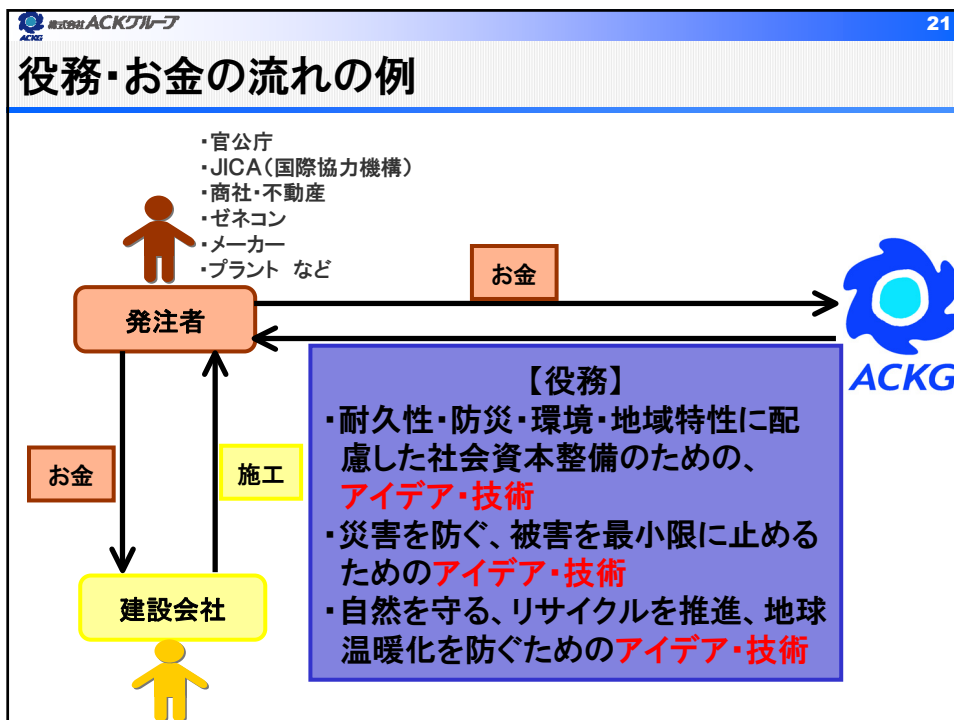
▲風力発電(エジプト)

▲バイオマス: CDM(アルゼンチン)

▲マングローブ保全(オマーン)

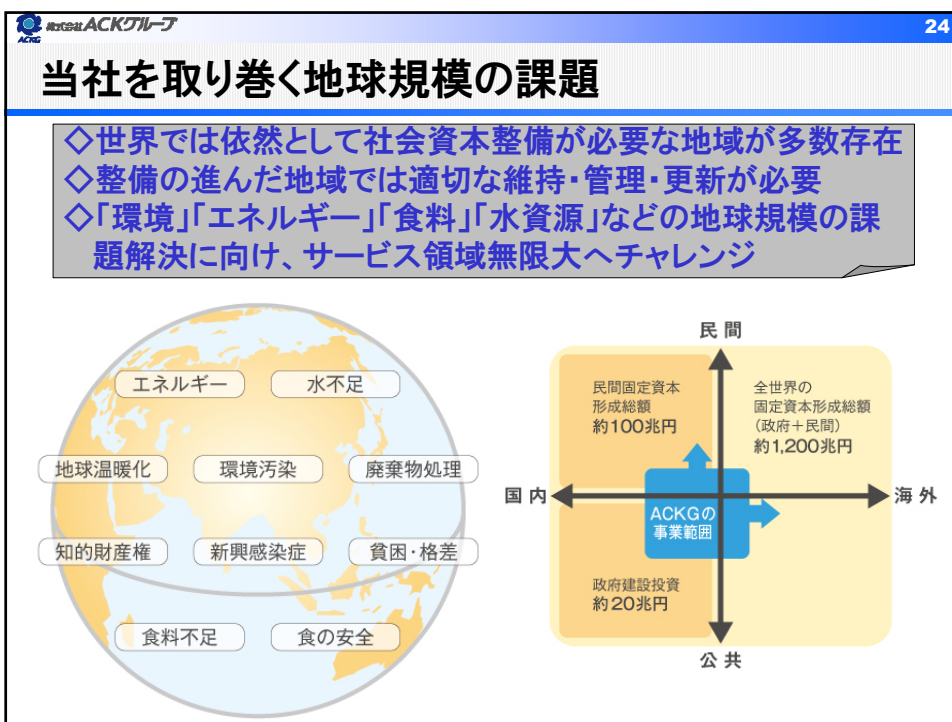
▲国家開発マスタープラン(カタール)

▲護岸建設事業(モルディブ)



IV:新中長期経営戦略 —ACKG2010—





メタナショナル企業への進化

知の感知

世界に散らばっている「知」を先見的に感知し、入手する

知の融合

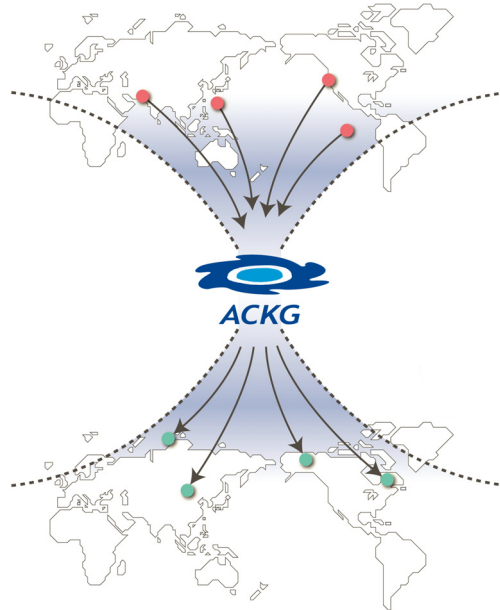
入手した「知」を融合させ、新たなものを創出する

知の展開

各地の特性をふまえ、展開する

※メタナショナルとは

世界の地政学的な側面や風土、人種などの特性を踏まえ、世界各地の優秀な能力をオーケストラのように融合し、各国の特性に最も適するものを提供する概念



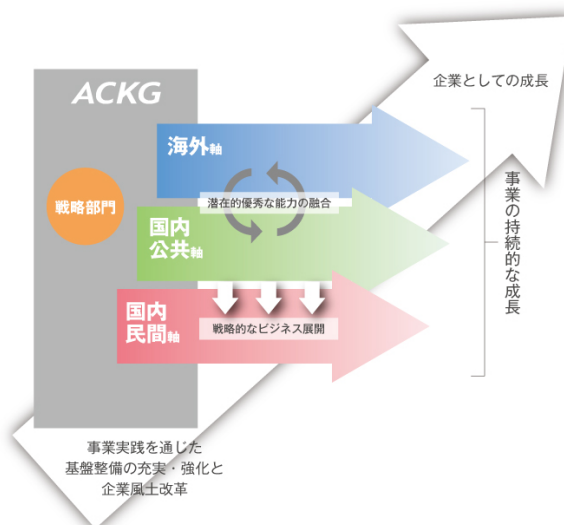
持続的な成長に向けた3軸の連携と改革

◇**海外軸**は、世界各地の優秀な能力を融合し、各国の強みに応じた事業の仕組みを構築

◇**国内公共軸**は、当社グループの情報発信源として、先端的な技術や先進性のある情報をグループ内外に提供

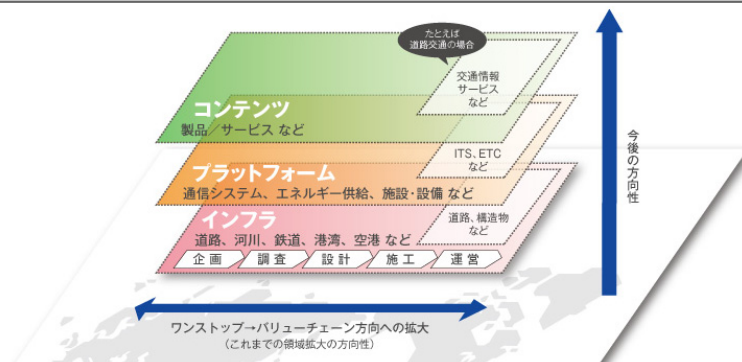
◇**国内民間軸**は、海外・国内公共で得た技術・ノウハウを駆使し、実業を主体としたビジネスを展開

◇**事業軸の連携と基盤整備・風土改革**により持続的な成長を果たせる企業へ進化



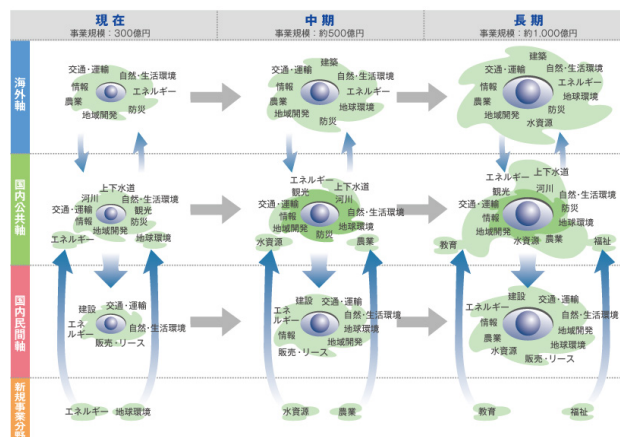
事業領域拡大の方向性

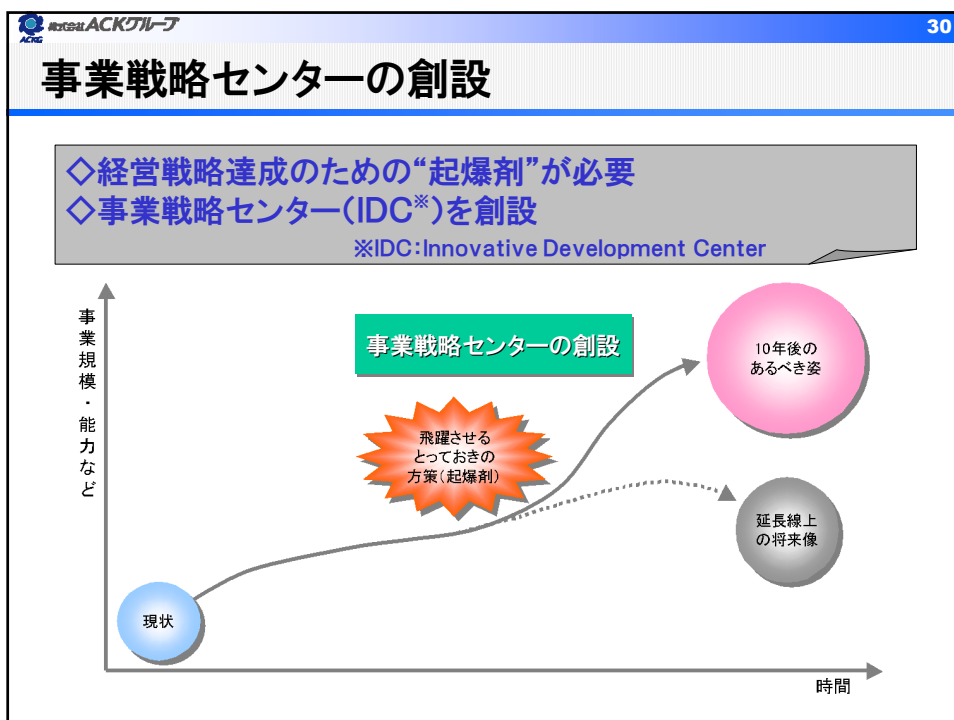
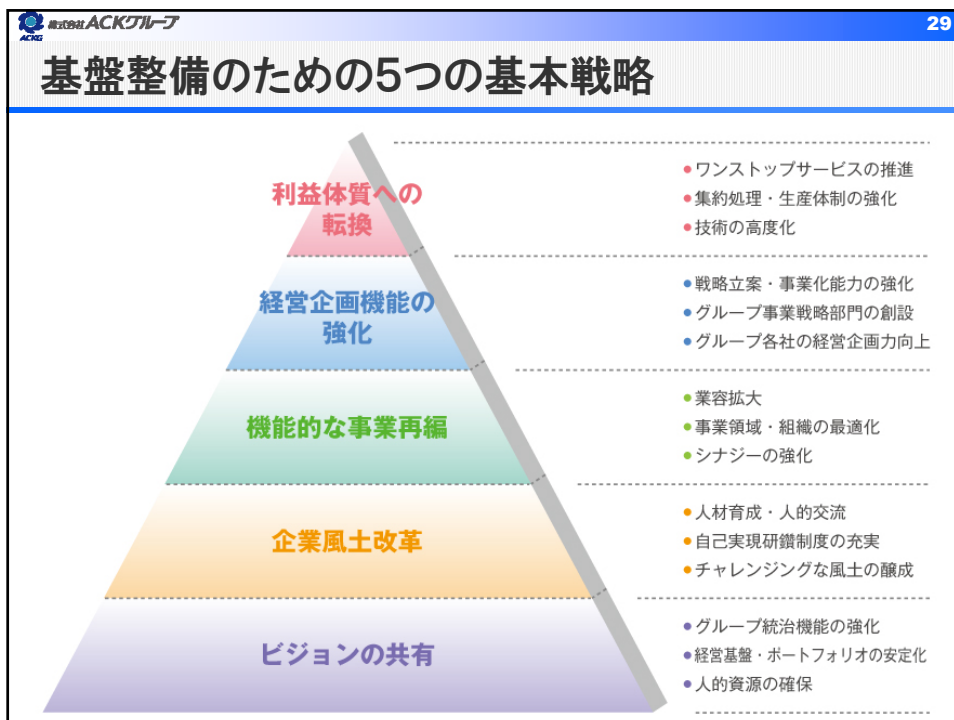
- ◇「インフラ」分野は世界的には、社会・生活を支える重要な基盤事業として今後も強化
- ◇「インフラ」分野だけに留まらない、「プラットフォーム」、「コンテンツ」などへも事業領域拡大
- ◇次世代産業も視野に「地球環境」「エネルギー」「食料」「水資源」などさまざまな課題にチャレンジ



事業領域の拡大イメージ(3軸の均等バランス)

- ◇「地球環境」「エネルギー」「食料」「水資源」など新たな分野に事業領域を拡大
- ◇海外・国内公共・国内民間=1:1:1の早期実現を目指す
⇒安定した経営基盤の確立





事業戦略センター創設の目的

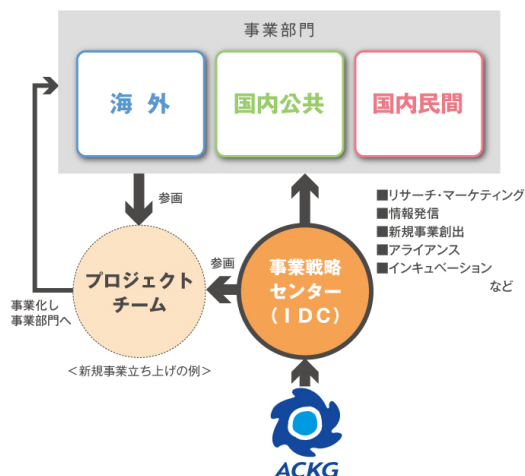
- ◇メタナショナル企業として世界レベルの事業提供の
機会の創出
- ◇各事業軸(海外、国内公共、国内民間)の連携によ
る新規事業の創出
- ◇チャレンジングな企業風土の進化・醸成

第5期(2009年10月1日)
事業戦略センター(IDC)創設

事業戦略センターの役割

- ◇リサーチ・マーケティング
- ◇研究結果の情報発信
- ◇新規事業の創出
- ◇他企業とのアライアンス
- ◇アイデア・発想実現のイン
キュベーション

- ◇プロジェクトチームに参画
- ◇事業化を推進
- ◇実践組織として活躍



感じてますか 未来の鼓動

顧客価値の追求を通じ

『世界の人々の豊かなくらしと夢の創造』を目指し、
今の業容にとらわれずサービス領域無限大へ
今後もチャレンジし続けます！



株式会社

ACKグループ



V : 質疑応答



APPENDICES



株式会社 **ACKグループ**

株式会社 **オリエンタルコンサルタンツ**

36

-エコ通勤実証実験-

日本モビリティ・マネジメント会議プロジェクト賞を受賞

◇倉敷市 水島コンビナート・エコ通勤の取り組みがJCOMM※プロジェクト賞を受賞

◇シャトルバス運行により、一日あたり平均220人のエコ通勤実施により約500kg-CO₂/日の削減

※JCOMM(日本モビリティ・マネジメント会議)とは、モビリティ・マネジメント※が、効果的かつ広範に推進されることを支援するために、国土交通省と(社)土木学会とが共同主催している会議

モビリティ・マネジメント施策

渋滞や環境、あるいは個人の健康等の問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から『かしこく』使う方向へと自発的な転換を促すコミュニケーションを中心とした持続的な取り組み

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ GC事業本部の海外事業トピックス

◇アジア、中近東、アフリカなど、世界各国で事業を展開
◇総合開発計画、農業、保全、災害復旧・復興、教育、情報ネットワーク整備など、多様な事業実施



▲総合開発計画(アフリカ地域)



▲農業関連(中央アジア)



▲橋梁架け替え(東南アジア)



▲災害復旧・復興



▲大学整備(東南アジア)



▲情報ネットワーク整備(南アジア)

JAPANプロジェクト国際賞審査委員長賞を受賞

◇オリエンタルコンサルタンツが設計・工事監理を担当したラオス・タイ第2メコン国際橋(完成後呼称「Friendship Bridge II」)建設工事が、国土交通省JAPANプロジェクト国際賞審査委員長賞を受賞

◇同賞は、わが国の技術を海外にアピールする目的で今年度設立

◇2009年11月メコン川流域5カ国に対し、鳩山首相は今後3年間で数千億円規模の支援を表明(日メコン首脳東京宣言)



▲ラオス・タイ第2メコン国際橋全景



▲夕日に映えるラオス・タイ第2メコン国際橋

株式会社 ACKグループ

株式会社 中央設計技術研究所

39

国土交通省「循環のみち下水道賞」 資源のみち部門を受賞

◇石川県珠洲市浄化センター・バイオメタン発酵施設が、国土交通省「循環のみち下水道賞」資源のみち部門を受賞

◇導入計画の策定、実用化研究、施設の詳細設計、施工監理、運転管理まで実施




株式会社 ACKグループ

40

(単位:百万円)	前期(‘08/09期)		当期(‘09/09期)		増減額
流動資産	10,699	(61.5%)	13,263	(68.5%)	2,564
固定資産	6,690	(38.5%)	6,090	(31.5%)	▲600
資産合計	17,389	(100.0%)	19,353	(100.0%)	1,964
流動負債	9,179	(52.8%)	10,958	(56.6%)	1,779
固定負債	2,037	(11.7%)	2,120	(11.0%)	83
負債合計	11,216	(64.5%)	13,078	(67.6%)	1,862
資本金	503	(2.9%)	503	(2.6%)	0
資本剰余金	748	(4.3%)	748	(3.9%)	0
利益剰余金	4,798	(27.6%)	4,893	(25.3%)	95
少数株主持分	320	(1.8%)	329	(1.7%)	9
純資産合計	6,173	(35.5%)	6,275	(32.4%)	102
負債・純資産合計	17,389	(100.0%)	19,353	(100.0%)	1,964

海外事業の譲受直後における運転資金(完成業務未収入金、未成業務支出金)の増加とそれを賄う短期借入金の増加

— 売掛金の早期回収と前受金の十分な確保が急務 —

株式会社 ACKグループ						41
連結損益計算書						
(単位:百万円)						
	前期 ('08/09期)		当期 ('09/09期)		増減額	
売上高	26,380	(100.0%)	29,911	(100.0%)	3,531	オリエンタルコンサルタンツの 事業譲受による規模 拡大
売上原価	19,298	(73.2%)	21,940	(73.4%)	2,642	
販売費・ 一般管理費	6,663	(25.2%)	7,402	(24.7%)	739	
営業利益	418	(1.6%)	568	(1.9%)	150	
経常利益	445	(1.7%)	466	(1.6%)	21	
当期純利益	57	(0.2%)	136	(0.5%)	79	
受注高	23,804	----	28,209	----	4,405	
※営業外費用(為替差損):97百万円						
※特別損失(投資有価証券評価損):32百万円						

株式会社 ACKグループ						42
連結キャッシュ・フロー計算書						
(単位:百万円)						
	前期 ('08/09期)	当期 ('09/09期)	増減額			
営業活動による キャッシュフロー	▲264	▲1,873	▲1,609	海外事業の譲受直後における 運転資金の増加が、前期、 当期に跨りマイナス(海外事 業における短期借入金残高 前期6億円、当期36億円)		
投資活動による キャッシュフロー	▲1,504	▲531	973			
財務活動による キャッシュフロー	746	3,118	2,372	事業譲受に係る支出は、当 期にて完了、旧本社分の差 入保証金の回収		
現金及び現金同等物 の期末残高	1,109	1,776	667			
				運転資金確保のため借入金 増加		

指標関係(連結)			
	単位	前期 (‘08/09期)	当期 (‘09/09期)
1株当たり当期純利益(EPS)	(円)	10.33	24.83
自己資本比率	(%)	33.7	30.7
自己資本当期純利益率(ROE)	(%)	1.0	2.3
総資産経常利益率(ROA)	(%)	2.9	2.5
株価純資産倍率(PBR)	(倍)	0.28	0.24

 44	
お問い合わせ先	
 株式会社 ACKグループ	 銘柄略称: ACKG 証券コード: 2498
〒151-0071 東京都渋谷区本町3-12-1 住友不動産西新宿ビル6号館 TEL: 03-6311-6641(代) FAX: 03-6311-6642 URL: http://www.ack-g.com (銘柄略称: ACKG / 証券コード: 2498) 問合せ 統括管理本部 長尾 千歳 e-mail: ir-ackg@ack-g.com	
本日は弊社決算説明会に ご参加いただきましてありがとうございました	